

9 近代の短歌・短歌を読む

組	
番号	
氏名	

1 次のA・Bの短歌を読んで、問いに答えなさい。

A 秋暮れて今年もさむし午后 <small>ごご</small> はやく日かげる庭の白菊の光り 木下 <small>きのした</small> 利弦 <small>りげん</small>
B 街灯の光とどかぬ舗道 <small>おちば</small> にて落葉あかるく月照りにけり 佐藤 <small>さとう</small> 佐太郎 <small>さたろう</small>

(注) 舗道＝表面を平らに舗装した道路。

① Aの短歌について、言葉のつながりや意味のまとまりから切れ目を付けるとしたらどこになりますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

(「/」は切れめを表します。)

- 1 秋暮れて／今年もさむし午后はやく日かげる庭の白菊の光り
- 2 秋暮れて今年もさむし／午后はやく日かげる庭の白菊の光り
- 3 秋暮れて今年もさむし午后はやく／日かげる庭の白菊の光り
- 4 秋暮れて今年もさむし午后はやく日かげる庭の／白菊の光り

解答

② Bの短歌について書かれたものとして最も適切なものを、1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 街灯の光も月の光も届かない舗道で、落ち葉が明るく光っているように見えて不思議に思ったことを詠んでいる。
- 2 街灯の光と月の光との両方に照らし出された舗道を歩き、ひときわ輝く落ち葉を見つけて驚いたことを詠んでいる。
- 3 街灯の光が届かない舗道なのに、落ち葉が光っているのを見て月の明るさに心を動かされたことを詠んでいる。
- 4 街灯の光で照らされた落ち葉があまりに明るくて、月が照っていることにも気付かなかったことを詠んでいる。

解答